

令和7年度 広島県 英語教育改善プラン

目標

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。

「英語の勉強は好きですか」の質問項目に対し肯定的に回答する児童の割合 (R6: 70.5% ⇒ R7: 72%以上) 【全国学力・学習状況調査】

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

①授業における、児童の英語による言語活動時間の割合の増加

・50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合 (R4:93.5%→R5:95.1%)
・75%以上の時間言語活動を行っている学校の割合 (R4:59.3%→ R5:66.7%)

②児童の学習意欲の向上

・「英語の勉強は好きですか」の質問項目に肯定的に回答した児童の割合
(R3:68.8%→R5:70.7%→
R6:70.5%)

③資質・能力の育成に向けた明確な目標設定

・「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の設定状況等が改善。
(R5:設定:100%、公表:98.4%、達成状況の把握:99.7%)
・学習到達目標に基づいた明確な単元目標の設定

2. 要因分析

①②研修等を通じ、「言語活動を中心に据えた授業」を展開することが浸透し、英語による言語活動を行う教員が増加していると考えられる。

また、教員自身が積極的に英語を用いて授業を行うことにより、児童の英語による言語活動時間が増加し、児童の学習意欲が向上していると考えられる。

③学習到達目標に基づき、「外国語を使って何ができるようになるか」という児童に身に付けさせたい資質・能力を明確に設定し、ゴールイメージとなる児童の具体的な姿をもって授業を実施する教員が増加していると考えられる。また、目標設定に留まらず、目標・指導と評価の一体化が意識されていることが考えられる。

①小学校外国語科における「読むこと」及び「書くこと」の領域における目標の理解や、その目標を達成させるための指導の在り方等についての事例の普及が十分でなく、指導に難しさを感じている教員が多くいると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③①小学校外国語教育推進研修

《趣旨》

小学校外国語教育の円滑な実施と充実を図るため、各地域の中核となる教員を小学校英語専科教員として加配措置し、小学校外国語教育の課題に対応した授業改善に向けた実践的な研修を実施し、児童の英語力の向上を図る。

《内容》

- ・小学校英語専科教員を対象とした研修を年3回開催し、指導力及び専門性の向上を図る。
- ・研修のうち2回は、小学校英語専科教員の代表者による研究授業・研究協議等を行い、実際の授業を通じた指導力向上を図る。
- ・外部専門機関等から有識者を講師として招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。
- ・小学校英語専科教員による好事例を基に、小学校外国語教育に関する指導資料を作成し、県内に普及する。

①②③①小学校外国語活動・外国語 お助けデータバンク

《趣旨》

小学校外国語活動及び外国語科において、今求められる授業づくりに関する理解を深め、各校における授業改善及び学年間・校種間連携を充実させるため、県内全ての教員が活用することができるコンテンツに、「読むこと」及び「書くこと」の指導に関する内容の充実を図り、児童の英語力及び学習意欲向上に向けた授業改善及び校種間の接続を意識した授業づくりを推進する。

《内容》

- ・文部科学省から発信されている資料、MEXTchannel等
- ・県独自で作成した研修資料及び授業実践のための指導パッケージ
- ・県独自で作成した校内研修パッケージ

■新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を、R8年度に50%にすることを目標に、段階的に確保していく。

①「読むこと」及び「書くこと」の領域における指導の充実

・「読むこと」「書くこと」の領域において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識した言語活動を通した、具体的な指導が十分行われていない。

令和7年度 広島県 英語教育改善プラン

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。

目標

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：41.4％⇒R7：50.0％）
○授業における生徒の英語による言語活動時間の割合が半分以上と回答する学校の割合：（R6：74.0％⇒R7：90.0％）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業中、50％以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が増加。
（R5:71.3％⇒R6:74.0％ 前年度比+2.7）

②「英語の勉強は好きです」の質問項目に肯定的に回答した生徒の割合が増加。
（R5:56.7％⇒R6:57.6％ 前年度比+0.9）

未だ改善が必要な点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が減少し、全国平均値との差が拡大。
（R5:47.3％⇒R6:41.4％ 前年度比-5.9）
（R5:-2.7⇒R6:-11.0）

②5領域及び複数の領域を統合した言語活動の実施についての捉え方に、英語担当教師と生徒間で乖離がある。

2. 要因分析

①言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するという考えが浸透し、英語担当教師が、言語活動を中心に据えた授業づくりを行っている。

②英語担当教師が言語活動を中心に据えた授業づくりを行うことで、生徒の英語による言語活動時間の割合が増加し、生徒の学習意欲が向上していると考えられる。

①英語担当教師の学習指導要領についての理解や、それを踏まえた指導力に差が見られ、生徒に求められる英語力を十分に身に付けさせることができていない。

②英語担当教師が育成する資質・能力を明確にし、その目標に基づいた言語活動を設定することができていないと考えられる。また、生徒と言語活動の目的等を十分に共有できていないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②中学校外国語エンパワーメント研修

・各学校の中核となることを期待される中学校英語担当教員を対象に、言語活動を中心とした授業づくりに向けた研修及び伴走型支援を行うことにより、教員の指導力及び専門性の向上を図るとともに生徒の英語力向上を図る。

①①②生徒の英語力向上に向けた教職員研修会

・本県中学生の英語力に関する習熟状況を把握・分析を行うとともに、3年間を通したテーマ（「目標」「指導」「評価」）を設定し、英語担当教師の指導の充実及び生徒の学習状況の改善等、外国語教育の改善及び充実に向けた取組の推進を図る。

①②①②中学校英語授業の効果的な指導方法（5ラウンドシステム）等に関する実践的研究

・生徒の外国人等とコミュニケーションを図ることへの興味・関心を高めるとともに、英語力の向上を目指し、5ラウンドシステムを取り入れた中学校英語授業の在り方に関する実践的研究を実施する（研究推進校2校、協力校2校）。

①①②A Iの活用による英語教育強化事業

・A I活用に関する実践や知見の蓄積を行い、教師やA L T等による指導とA I活用との効果的な組合せについて実証研究し、成果の普及を図る。（A I 英語モデル校4校）。

①①②英語アセスメントテストの実施

・県内公立中学校の全生徒を対象に英語アセスメントテスト（英検IBA）を実施し、生徒の英語力を把握し、指導の成果と課題を踏まえた指導改善を推進することにより、生徒の英語力向上を目指す。

②「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

・生徒が外国人等と英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、県教育委員会が海外の教育機関等と連携してプラットフォームを構築し、交流等の実施を支援する（参加校12校）。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/newworld-pj/>

令和7年度 広島県 英語教育改善プラン

英語による言語活動を充実させ、五つの領域の資質・能力（聞く・読む・話す〔やり取り〕・話す〔発表〕・書く）を総合的に向上させる

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 47.0%、B1以上 19.6% ⇒ R7 : A2以上 55%、B1以上 25%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
(R5:49.4%⇒R6:57.7%)
- ②発話の50%以上を英語で行っている学校の割合
(R5:21.5%⇒R6:29.2%)

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5:49.6%⇒R6:47.0%)
※全国R6:51.6%
- ②発話の50%以上を英語で行っている学校の割合
(R5:21.5%⇒R6:29.2%)
※全国R6:41.6%

2. 要因分析

①②県の調査において、「読んだ内容について自分の考えを英語で書いたり、自分の考えを書いた英語を基に意見交換したりするなど、「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと」と有機的に関連付けて「書くこと」を行わせる活動を取り入れている。」と回答した学校の割合が増加し、英語による言語活動の充実が図られたため、生徒の英語力が向上したと考えられる。

	R3	R4	R5	R6
肯定的回答	79.3%	80.7%	81.5%	86.6%

①言語活動の充実は図れている一方で、CAN-DO形式による学習到達目標と単元で設定させるパフォーマンステストの関連性を明確にした計画に基づく指導が十分に行われていないことが考えられる。

②県の調査において、「普段から主に英語で授業を展開している」と回答した学校の割合は増加傾向にあるが、「よく当てはまる」と回答した学校については、15%以下であり、授業中に英語を用いて言語活動を行う場面が、部分的・限定的なものにとどまっていることが考えられる。

	R3	R4	R5	R6
肯定的回答	50.7%	56.7%	66.0%	61.9%
よく当てはまる	8.9%	15.0%	12.5%	14.7%

①②「話すこと〔やり取り〕」に係るパフォーマンステストの実施は、一定程度定着が図られているものの、結果の振り返りや改善に向けた具体的な取組が進んでいない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①「CAN-DO形式」による学習到達目標の活用の促進
各学校において、学習指導案及び「パフォーマンステスト実施報告書」等に単元目標と「CAN-DO形式」による学習到達目標との関わりを明記することにより、つながりを意識した単元計画を策定し、指導する。
- ②言語活動の充実を図る校内研究の充実及び好事例の共有化の促進
・各学校において、「話すこと〔やり取り〕」に係るパフォーマンステストの実施について「パフォーマンステスト実施報告書」により報告し、テストの内容だけでなく、指導及び評価等についても客観的に振り返る。
・各学校において、共有フォルダにアップロードされた他校の「パフォーマンステスト実施報告書」の好事例を参考にして、指導改善につなげる。
- ③生成AIの有効活用の検証及び成果普及
・AI英語モデル校は、AIの活用による英語教育強化事業に係るAI英語モデル校事業及びAI英語活用リーダー事業での取組において、授業中の生成AIの有効活用及び生成AIと教師等のベストミックスを研究し、その成果を各種研修における実践報告等で還元する。
・AI英語モデル校以外の学校は、モデル校の実践事例を参考に、自校における生成AIを活用した英語による言語活動の工夫について、検討する。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

広島県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	55	49.6	53	47.0	55		58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	25	19.7	23	19.6	25		27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	55	49.4	55	57.7	60		65		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100	58.0	100	60.2	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	82.2	100		100		100		
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	90	94.7	95	92.9	96		97		97	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	50	21.5	50	29.2	55		60		65	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50	47.3	50	41.4	50		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	87.5	71.3	87.5		90		92.5		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	50	49	50	46.8	50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	85	64.6	85		85		85		85	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	98.4	100		100		100		
		達成状況の把握（％）	100	99.7	100		100		100		